



東綾瀬小だより

10月号
令和4年10月3日
校長 木村浩昌

足立区立東綾瀬小学校 <http://www.adachi.ed.jp/adahia/>

算数の文章問題を読み解く

校長 木村 浩昌

10月に入ります。前期の学習も残すところあと1週間になりました。4月、新しいクラス、新しい先生との出会いから早半年が過ぎ去ろうとしています。毎日の学習や生活、夏の水泳指導、東綾瀬スポーツデイや日光自然教室などの大きな行事も経験し、子供たちは多くのことを学んできました。残り1週間、そのまとめをしっかりと行います。

さて前号で、今年度の区学力調査の結果について掲載しました。今号ではさらにその具体的な改善策に迫りたいと思います。

子供たちの学力調査の結果を分析してみると、特に算数科においては、単純な計算問題ではなく、文章を読み解く問題、言わば文章問題に若干の課題が見られる傾向があります。保護者の皆様からも、「計算はできても文章問題が苦手なんです」というお声を耳にすることがあります。では下の問題をご覧ください。

36個のケーキを一箱に4個ずつ入れました。箱はまだ6箱残っています。箱は全部で何箱ありますか？

文章問題を解く上で重要となるのは「読解力：事実関係や条件を読み取る力」です。

この問題で問われているのは、問題の後半後の部分、「箱はまだ6箱残っている」という事実と「箱は全部で何箱あるのか？」という最終的に求められる結論です。つまり「誰(何)がどうした」ということをちゃんと理解しているかどうか、何が主語で、それがどうなって、最終的に何が求められているのかをきちんと理解することが重要です。求められているのは箱の数ですから、上記の問題を言い換えてみると、

全部で何箱あるか知りたい。36個のケーキを4個ずつの箱に分けると□箱必要である。さらに6箱余っているので最後にそれを加える。→ $36 \div 4 + 6$

となります。このように文章問題が苦手と思われる子には、いきなり式を立てさせるのではなく、文章を読み解き、再構築して、それを式に変える＝「問題文の解き方を自分の言葉で説明させる練習」、をしてみると効果的です。そして実は、これこそが算数・数学を学習する最も重要な要素と言えます。つまり問題文が正しく読み解ければ、式を正しく立てられるということです。

文章題を読み解く上で最も大切なのは、基本的な国語力です。つまり、普段から文章を読む時に「誰が何をした」という、主語・述語の関係を意識させることが大切になります。このような基礎的な読解力がきちんと身に付いていないために、算数の文章題に苦手意識を抱えている子も少なくありません。国語力は全ての科目の土台となるものですので、学校でも引き続きしっかりと学習をさせ、他の教科でも生かせるようにしていきます。各ご家庭におかれましても、読書、読み聞かせ等々、文字に触れる機会を増やしてみたいと思います。

10月の予定

月	火	水	木	金	土	日
					1 都民の日 足立区民の日	2
3 タブレット朝会	4	5	6 B時程 4時間授業 校内研究授業(3-1) 3-1のみ 5時間授業	7 A時程 前期終業式 5時間授業	8	9
10 スポーツの日	11 A時程 後期始業式 学校公開始 安全指導日	12 4時間授業 カルビー教室 (4年生) 学校説明会	13 セーフティ教 室 (3, 4, 5, 6年) 児童集会	14 鋸南事前検診 (5年) ハロー6ちゃん クラス(1年)	15 土曜授業 道徳授業 地区公開講座 学校公開終	16
17 全校朝会 鋸南自然教室始 (5年)	18	19 鋸南自然教室終 (5年)	20 避難訓練 児童集会	21 4時間授業 (1~5年) 連合運動会 (6年)	22	23
24 全校朝会 パフォーマンス デイ時間割始 連合運動会予 備日	25 側弯検診 (5年) 7フレ遊び	26 開校記念日 (登校日) 秋季歯科検診	27 生活科見学 (1, 2年) 図書委員会発 表	28 クラブ活動	29	30
31						

生活指導部より

生活指導主任 山本 貴子

<落ち着いて、自分からすすんで勉強しましょう。>

いよいよ前期の終わりを迎えます。これまでの生活や学習を振り返り、新しい課題をもって、後期の生活に活かしていく10月にしていきたいと思ひます。
また、新型コロナウイルス感染症対策の手洗い・ソーシャルディスタンス・咳エチケットを引き続き行います。手洗いの際、ハンカチを持っていない児童がいますので、ハンカチを持たせてください。

登校時刻を守りましょう。8:10~8:20